

5/11 交通事故なくし隊関所が開設
春の全国交通安全運動

春の全国交通安全運動が5月11日から10日間実施され、期間中は町内の各地区で、のぼり旗の設置や街頭指導など、さまざまな啓発活動が実施されました。また、初日の11日には、出雲三成駅前とよこただんだん市場で、交通事故なくし隊関所が開設されました。

仁多地区建設業協会駐車場で行われた開所式には、勝田町長はじめ、雲南地区交通安全協会の糸原徳康会長ら30名が出席しました。

関所では、町のゆるキャラ「すさのおくん」といなたひめちゃん「さのこくん」といなたひめちゃんの「みこびくん」も街頭に立ち、ドライバリーに安全運転を呼び掛けました。



よこただんだん市場での関所の様子



すさのおくんといなたひめちゃんも安全運転を呼び掛け（出雲三成駅前）

今年の島根県での死亡事故の抑止目標は20人以下とされています。県内では、5月30日現在で15人の交通事故による死亡者がでており、前年の同じ時期と比べると7人の増となっています。また町内でも2月に1名の方が亡くなる重大な事故が発生しました。

近年は、高齢者が関わった交通事故の割合が高くなっています。町民の皆さんも、スピードダウンや上向きライトの積極的な活用、夜光反射材の着用など、交通安全に取り組みしましょう。

5/13 U-ターンの会交流会

奥出雲町にU-ターンの会交流会が、5月13日に稲原の「姫のそば ゆかり庵」で開かれ、移住者や地元住民などが参加しました。

この会は、自身も東京からIターンで来られ、八川地区で農業をされている大塚一貴さんの呼び掛けで、移住者同士の交流を図る場を設けようと、3年前から定期的に開催されています。

始めは10人程度だった参加者も、回を重ねるごとに輪が広がり、今回は約40人の参加者となりました。



和やかに歓談する参加者

また、今回からは横田地区の自治会長を招待し、地元住民との交流も図られました。自治会長からは「普段から名前を聞く機会はあるが、実際に会うと親身になれる」「自分たちも歓迎する方策を考えたい」といった前向きな声が聴かれました。

移住者の皆さんは、お互いのやりたいことや困りごとの相談など、食事を取りながら和やかに話されていました。



地元住民など多くの人が参加しました

5/13 小学校連合体育大会

町内の小学校から3年生以上の児童約370人が参加し、日頃の練習の成果を競う第11回奥出雲町小学校連合体育大会が、5月13日に三成運動公園陸上競技場で開かれました。

大会長の藤原寛鳥上小学校校長からは、「この大会を、ふるさとについて学ぶ機会、仲間がいることの素晴らしさを感じる機会、そして色々なことに感謝する機会にしてください」とあいさつがありました。



「よーくやった！よーくやった！」と仲間を応援



一生懸命走る子どもたち

この大会のため、子どもたちはそれぞれの小学校で4月から練習を重ねてきました。

トラックとフィールドでは25種目の競技が行われ、今はライバルでもいずれば共に学ぶ仲間となる相手と、熱戦を繰り広げました。

また、各小学校の応援席では、頑張っている仲間に一生懸命声援を送っていました。

今年は、6年生男子10000メートル走で鳥上小の松崎唯斗さんが、これまでの記録を約12秒縮める大会新記録を出すなど、好記録が生まれました。

5/15 奥出雲仁多米 田植え交流会



田植機を運転し田植えをする赤塚社長

使われており、全国の有名百貨店など83店舗で販売され、ナンバーワンの売れ筋商品となっています。

この交流会は、柿安本店に仁多米を販売している奥出雲仁多米株式会社主催で3年前から始まり、毎年田植えの時期と稲刈りの時期の年2回開かれています。この日は県や町の関係者なども参加して、一緒に田植えを行いました。赤塚社長自ら田植機を使い、地元農家の方の指導を受けながら2時間かけて、およそ15坪の田んぼに苗を植えました。

赤塚社長は仁多米について、今後予定している海外進出について触れ「日本の仁多米から世界の仁多米として、柿安本店を通じて広めていきたい」と話されました。

全国で外食・中食事業を展開する大手企業の株式会社柿安本店（三重県桑名市）の赤塚保正社長らが町に訪れ、関係者と田植えをして親しくを囲む「田植え交流会」が5月15日、大馬木にある柿安指定農園で開かれました。

柿安本店は、1871年（明治4年）創業の140年以上続く老舗で、精肉、惣菜事業などを手掛ける大手の食品メーカーです。看板商品の牛めし弁当には仁多米が



赤塚社長